



表す 感じる



かほく防災記者リポート



仙台市七北田中2年 高橋 彩葵さん

多言語の情報発信大切



外国出身の教員が多く勤務している仙台市泉区の宮城明泉学園を8月10月に訪ね、ナンシー・リー先生をはじめ外国人教員に防災教育や防災対策について話を聞いた。私は明泉幼稚園の卒園生で、今も英語を学ぶに通っている。同学園は年2回、地震を想定した避難訓練をしているほか、子どもたちの安全を守るため、職員への防災教育も重視している。

台湾出身のナンシー先生は2007年から仙台在住で、東日本大震災を経験し、避難所になった仙台市内の小学校でボランティア活動をした。当時の体験も交えて、初めて日本に来る外国人に、災害と防災の基礎知識を教えている。



防災教育の内容は幅広く、10段階ある日本の震度階級や、耐震基準を満たした建物はある程度強い地震でも倒れる心配がないので慌てて外に逃げる必要がないことを説明する。災害に備えて食料、水などを用意したり、スマートフォンに防災アプリを入れたりすることも呼びかける。

防災教育を受けたある先生は「話を聞いて怖く

- ①ナンシー先生(右)に外国人教員への防災教育について取材した=10月16日、仙台市泉区の宮城明泉学園
- ②外国語で災害時の行動が書かれたパンフレット



なり、その日のうちに非常食などを買った」と言う。入院していた際に大きな地震を経験した先生は「看護師さんが話していた日本語の内容は分からなかったが、地震の知識があったので落ち着いて対応することができた」と振り返った。

多くの先生はキャンプ道具の購入、非常食の備蓄、車の燃料が半分になったら給油するといった取り組みをしていた。実際に災害が起きたときに、落ち着いて災害に対応するには、あらかじめ

仙台市で暮らす外国人は、仙台市のホームページによると、2024年4月30日現在、1万6038人を数える。宮城県は地震が多いので、外国人の地震に対する防災意識を高める必要がある。

外国人に向けた防災情報の発信が気になり9月28日、青葉区の仙台多文化共生センターも訪ねた。さまざまな言語で災害時の行動が記されているパンフレットがあった。このような施設や資料を有効に活用し、日本語が分からない人が困らないように、まずは多言語で防災情報を届けることが大切だと思った。

学力UPのキは国語力!!

河北新報のコラム「河北春秋」を活用した学習法をご紹介します。ベテラン記者が執筆した文章を読むことで、豊かな言葉や表現が身につきます。また旬の話題や時事問題にも強くなります。

河北春秋 3ステップ

STEP 1 基礎力アップ 書き写す

「河北春秋」の文字数は約500字。書き写すことで、作文力や読解力、漢字力といった「国語力」が向上します。また、分からない単語を調べると語彙力もアップします。

STEP 2 論説文対策 100字で要約する

「河北春秋」の要約は論説文対策にピッタリ。読み解いて分かりやすく伝える文章の練習になります。



STEP 3 小説問題対策 自分の意見や感想を書く

自分の考えを50字以内で書きましょう。小説問題は文章の行間を読み、自分の考えを制限字数内で簡潔にまとめる練習が役立ちます。

チョイ読みで時事力UP

入試では、新聞記事を使った出題が増加傾向。新聞をめぐり「見出しだけ」チェックしましょう。世の中の動きを効率よく知ることができます。

「河北春秋」はここ!



新聞を 活用して をつけよう!

まずは1週間 お試しください

ご希望の方に、「河北春秋書き写し1週間お試し版」をお届けします。また、河北新報をお読みでない場合は、新聞も1週間お届けします。右の二次元コードよりお申し込みください。

